

お吉が眠る



開国の影にひっそりと咲き
差別のなかに一生を終えた
唐人お吉

幕末回天の寺



差別に立ち向かった
幕末の風雲児
坂本龍馬

龍馬が飛び

ここ宝福寺でお吉と龍馬は光と影のように交差している



伊豆下田 八幡山 宝福寺 唐人お吉記念館

宝福寺由来

1. 永禄2年(1559)11月、信長の圧迫をのがれ、本願寺第11代顕如並に法孫釈了善、真言を改め開基。
2. 文久3年1月15日、宝福寺に滞在中の山内容堂に勝海舟が来山し、坂本龍馬の脱藩の罪の許しを乞い、許されている。
3. 嘉永7年(1854)日米和親交渉にあたり、日本全権の本陣となり、下田奉行所が置かれていた。
4. 唐人お吉菩提寺、お吉記念館(ドイツ、英国に博物館として登録されている)
5. 慶応元年(1865)韭山代官江川太郎左衛門英武の本陣、農兵訓練所址。
6. 明治に入り、宮城の修復のため寺有地の大半を売却して協力、菊の紋章の使用を許され、又、第一回徴兵検査場として使用されたり、賀茂郡役所として利用されてきた。

●ご案内 (駐車場あり)

開館時間 / AM8:00~PM5:00 (年中無休)

入館料 / 大人400円、中・高校生200円

小学生以下無料、団体(20名より)1割引



水谷八重子さんや総代
たちによつて新しくな
った現在のお吉の墓



唐人お吉について

唐人お吉は本名を斉藤さ

ちといい、天保十二年十

一月十日、愛知県知多郡

内海(うつみ)に、舟大

工市兵衛の次女としてこ

の世に生をうけました。四歳のとき家族が下田に移り住み、十四

歳で芸妓となりました。新内明烏のお吉とうたわれるほどの評判

の美貌でしたが、それが奉行所の目のとまることとなり、十七歳

の時、法外な年俸と引替えに心ならずもアメリカ総領事タウンゼ

ントハリスのもとへ待妾として奉公にあがることとなります。そ

の後京都の祇園で芸妓となり、勝海舟とも交流のあった松浦武

四郎の配下となつて開国運動に奔走しました。維新後は流浪の果

てに下田にもどり、鶴松と暮らし髪結業を始めますが、ほどなく

離別。さらに小料理屋安直楼を開業しますが、二年後に廃業して

います。「唐人」という相も変らぬ世間の罵声と嘲笑をあびなが

ら貧困の中に身をもちくずし、明治二十四年三月二十七日の豪雨

の夜、遂に川へ身を投げ、自らの命を絶つてしまいます。波瀾に

みちた五十一年の生涯のあまりにも哀しい終幕でした。お吉は身

よりもなく、宝福寺の第十五代竹岡大乘住職が、慈愛の心で法名

「釈貞歓尼」を贈り、当時境内に手厚く葬り、その後芸能人によ

り新しく墓石も寄進され現

在に至っています。

お吉の悲劇的生涯は、人間

の偏見と権力、その底にひ

そむ罪の可能性と愚かさを

身をもって私達に教えてい

るようです。



お吉供養祭
毎年3月27日
お吉ヶ淵にて開催



お吉19歳 安政5年撮影
撮影者：水野半兵衛氏
出品者：水野重四郎氏



お吉使用の
かんざし類

お吉の悲劇的生涯は、人間
の偏見と権力、その底にひ
そむ罪の可能性と愚かさを
身をもって私達に教えてい
るようです。

唐人お吉のお墓と記念館 / 山内容堂・勝海舟 謁見の間

坂本龍馬は

伊豆下田から翔けた

文久三年(1863)一月十五日、第十五代土佐

藩主(前藩主)・山内容堂は江戸より大鵬丸にて

上洛途上、季節外れの時化により、ここ宝福寺に

投宿していました。時を同じくして兵庫より脱藩

の浪士・坂本龍馬らを伴い、勝海舟が順動丸に乗

つて東帰の途にありましたが、下田港に避難し、

角谷に投宿していました。幕府軍艦奉行並・勝海

舟入港の知らせに容堂は、是非とも酒席に招きたいと使者を遣わし、海舟もま

たわずかな供を連れ宝福寺に参上、謁見をします。

海舟は、容堂に龍馬の脱藩の罪を解き、その身を自分に預けてほしいと懇願し

ます。容堂は、海舟が酒を飲めないのを承知で「ならば、この酒を飲み干して

みよ」と切り返す。そして、ためらうことなく朱の大杯を飲み干した海舟。さ

らに赦免の証を求める海舟に、容堂は自らの白扇を取り出し、「瓢箪」を描き、

その中に「歳醉三百六十回鯨海酔侯」と署名し、海舟に手渡したのです。

この海舟の直談判によつて龍馬はまもなく脱藩を許され、文字通り維新回天の

活躍が始まります。龍馬は伊豆下田・宝福寺で、まさに天馬となつて飛翔しま

した。そして一気に激動の時代を駆けぬけていったのです。宝福寺には「坂本

龍馬住吉楼待機の一説」が言い伝えとして残されています。

この謁見の間、龍馬は住吉楼という遊郭で待機して吉報を

待ったといわれています。



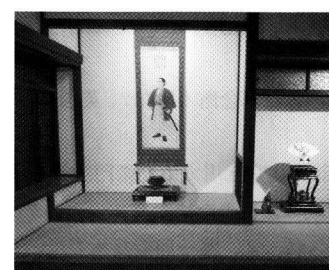
第十五代土佐藩主
山内容堂
(1827~1872)



幕府軍艦奉行並
勝海舟
(1823~1899)



勝海舟が一気に飲み干した
朱の大杯
(宝福寺 蔵)



山内容堂、
勝海舟
謁見の間



坂本龍馬
(高知県立坂本龍馬記念館 蔵)

